

令和4年度

学校関係者評価 報告書

社会福祉法人 周山会

富山医療福祉専門学校

## 令和4年度 富山医療福祉専門学校

### 学校関係者評価委員会

1. 日 時 令和5年6月25日（日）15時00分～16時30分
2. 場 所 社会福祉法人周山会 老人保健施設なごみ苑 4階会議室
3. 出席者

#### 学校関係者評価委員

- ・原洋子 （滑川市連合婦人会長）
- ・出村眞佐範 （滑川市元副市長）
- ・山田修 （富山県農業共済組合職員）
- ・加田洋一 （元滑川市社会福祉協議会会長）

#### 学校関係者

- ・長谷川成樹 （学校長）
- ・酒井吉仁 （学校長補佐）
- ・吉森幸喜 （事務長）

#### 4. 議題

- 1) 令和4年度自己点検・評価 報告
- 2) 令和4年度自己点検・評価 審議

# 令和4年度自己点検・評価 審議報告

## <学校関係者評価委員評価>

### I. 教育理念について

教育理念は、医療・保健・福祉に関わる専門職業人養成校としては妥当なものであり、これが大きく変わることはないだろう。教育理念に基づき示された教育目標・教育方針が達成できるよう今後も取り組んでいただきたい。これらを学校紹介、募集要項への記載だけでなく、HP上で伝えていくことも大切であろう。入学後の学生には、わかりやすく伝えていくことが大切である。また、単に伝えるのではなく、学生が教育方針を理解し、学修に取り組めるよう活用して欲しい。さらに教職員・学生に浸透しやすいようにキャッチコピーで示すことも考えられたい。

### II. 教育活動について

昨年度に引き続き、感染予防対策、災害対策がなされ、適切に授業、試験が行われたこと、教育評価が現状において適切に実施されていることは評価できる。また、目標に到達しない学生に対して適切なフォローがなされていることも評価できる。今後も引き続き、学生の学修成果を高め、学習意欲を継続できるように教育活動に取り組んで行っていただきたい。

### III. 学生受け入れについて

入学志願者の減少、入学辞退などによる定員充足率の減少については少子化の影響もあると考えられるが、昨今では若者の職業観・生活感の変化も影響しているように思われる。志望動機も様々であろうが、明確な意思を持って入学してきた学生の声を聞くことにより求められる学校・学科のあり方を考えてみてはどうか。これまでの申し分の無い教育実績（進級率・卒業率・国家試験合格率・就職率）だけでなく、卒業生の臨床活動・実績、社会貢献などの情報を社会に公開していくことも必要であろう。

また、地域に根ざした学校として滑川市との連携を強化していくことも学生受け入れには必要と考えられる。

### IV. 教職員組織について

学生・教職員のワクチン接種のための休暇、在宅勤務体制整備がなされ適切に業務が遂行されていることは評価できる。

社会支援活動が活発になされており、学生の社会活動参加の機会が増えていることも評価できる。今後も継続して行って欲しい。

この状況下での学会参加、研究活動の個人差は仕方がないが、教育の質を高められるように取り組んで行って欲しい。

## V. 施設・設備等について

設備の経年劣化は仕方がない。今後も必要な修理、交換を計画的に行って  
いって欲しい。

## VI. 学生生活支援について

卒業後に専門職として社会に貢献していくためにも、社会活動、実習での  
学習経験が重要である。

災害支援、防災訓練などは、卒業後の医療・福祉の現場において必要なも  
のとなるので、就業後の臨床現場での災害訓練、教育をカリキュラムに取り  
入れて行って欲しい。

今後も学生が安全・安心して学習、学事に取り組めるよう、健康的に生活  
ができるように支援をおこなって行って欲しい。

## VII. 管理・運営について

人格、多様な性への理解と対応が今後も必要となってくる。様々な問題へ  
の相談窓口の周知や対応について丁寧に説明を行って行って欲しい。

## <今後の取り組み>

評価委員会からいただきましたご意見により今後の課題が明確となりました。

また、課題解決に向けての取り組みについてご助言をいただくことができました。令和5年度は、教育理念「知識力、人間性、対応力で有用の人に」を踏まえ、委員会からいただきましたご助言をもとに、課題解決に向けた教育改善に取り組んでまいります。今後も教育目標「健康増進から看取りまでの広範囲で多様な健康問題に対応できる人材の育成」の達成に向けた教育を実践してまいります。